

会見内容

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 それでは定刻になりましたので、定例記者会見を始めたいと思いますが、今日初めて参加される記者の方をご紹介します。まず初めに、共同通信社敦賀市通信部の阿部佳織様でございます。

【記者】 2年間、初任地福井で過ごしまして、今日まさに5月1日に敦賀の通信部に着任することになりました。また今後ともよろしくお願いします。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。続きまして、日刊工業新聞社福井支局長の奥野敏幸様でございます。

【記者】 日刊工業新聞の奥野と申します。大阪から来ました。駆け出しのころに、ちょうど31年前に福井に2年間いました。よろしくお願いします。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。それでは、市長からごあいさつをさせていただきます。

【市長】 それでは、一言ごあいさつを申し上げます。

5月定例記者会見ということでございますけれども、私にとりましては4期目今日はスタートの日でございますし、気持ちを新たに臨んでいるところであります。

統一地方選挙におきまして、市民の皆さん方の負託にこたえ当選をさせていただいたところでございますけれども、無投票というこの重みをしっかりと受けとめながら、第5次総合計画をしっかりと完成させようという意気込みを持って、職員の皆さん方と力を合わせながら、また市議会、市民の皆さん方のご協力、そしていろんなご提言をいただいて頑張っていきたい、このように気持ちを新たにいたしておるところでございます。

記者クラブの皆さん方にも引き続きましていろいろとお世話になると存じますけれども、よろしくお願ひしたい。このように存ずるところでございます。

多くの課題を抱えておりますし、その解決、私いつも思っておりますが、階段を一段一段上がるごとく慎重に、また着実に努力をしながらその思いを積み重ねていって、そして第5次総合計画を何とか完成に向けて頑張っていきたい、このようにも思っているところでございます。

今後ともどうかよろしくお願ひいたします。

【広報広聴課長】 それでは質疑応答に入りたいと思います。では、まず幹事社からお願ひいたします。

【記者】 まず1点、午前中のごあいさつともかぶるかもしれませんが、今日4期目の初登庁をされて、まず意気込みと、4期目でこれは取り組みたいという、第5次総合計画というお話もありましたが、もう少し具体的にこういったことに取り組みたいというのがあれば、最初にお聞かせください。

【市長】 意気込みでありますけれども、3期12年間、自分なりに頑張ってきたつもりでございまして、当選をさせていただいたということは市民の皆さん方から、この4年間もしっかりやれということでもありますので、そのことに十分こたえていきたい、このように思っております。しっかり頑張るぞという、そういう意気込みは今持つておるところであります。

それと、これからでありますけれども、今おっしゃっていただきました第5次総合計画もしっかり仕上げるということですが、特に選挙のときにもお話をいたしました直流化はこれからだというこの思いであります。今多くのお客さんに来ていただいておりますし、観光協会、また民間の皆さん方のいろんなご努力もあって、たくさんの皆さん方、この連休もお越しであります。まだまだ来ていただいた皆さん方の声にこたえなくてはならぬ部分があります。それを行政としてどのように対応できるのか。また、これは民間の力が非常に大事でありますので、民間の皆さん方とも十分情報交換をしながら、共に来ていただいた人が敦賀へ行ったら良かったなということをいろんなところにまた帰ったときに、おっしゃっていただけることによって、その人もリピーターになりましょうし、ま

た口コミという大変昔からある、また一番効果があるであろうと言われている情報伝達も生かして、これからも快速電車は永遠に続くわけでありますので、そういうお客さん方、一度じゃなくて二度三度とこの敦賀を中心とした嶺南地域、また福井県全体に来ていただけますように努力をしていきたいというふうに思っております。

また、いろんな整備事業も一歩ずつ進んでおりますが、特に国との関係が深い港湾の整備、このことにつきましては19年度中には大体完成するわけでありますが、その上のインフラ等もまだ残っておるといふふうに存じますし、これも早く総合的に完成を目指してまいります。

また、高速交通体系の方では、もう年度は決まっておりますが平成26年の舞鶴若狭自動車道の完成ということが出ておりますけれども、これもできる限り一日でも早くという思いの中で今後ともしっかり国、また中日本道路株式会社初め、関係のところに要請をしながら完成を目指してまいります、このようにも思っております。

なおまた、原子力の問題につきましてはまだまだ多くの課題を抱えておりますので、やはり何といたしても安心、安全というものをしっかりと基本としながら、原子力発電所があつてよかつたと言われる敦賀のまちについても努力をしていきたい、このように思います。

また、港湾関係の旧港の部分でありますけれども、これもいろいろ選挙中、また選挙前にお話をいたしました、やはり人道の港ということをも日本中にアピールしたい。また大きく出れば、世界にアピールをしたいなというふうに思っております、そのあたりの整備につきましても今後ともしっかりと、この4期の間になるべく早く人道の港等の整備については行っていきたいなというふうに思っております。

また、その他産業振興につきましても、何とか既存の企業の皆さん方にも元気を出していただくことも大事でありますし、当然、産業団地につきましても、できる限り早い時期に一杯にしたい、このような思いも持っております。

それと、特に受け皿とちょっとダブってしまいますけれども、何とか港線をうまく活用ができるのかなということで、ひげ線につきましては全国的に見ますと非常に少なくなつてきておりますので、JR西日本さんとは違う、系列といえば系列なんでしょうけれどもJR貨物さんが今持っておりますので、あそこをうまく活用した形で旧港に多くの皆さん方、そして人道の港に来ていただける、そういうことも考えております。

話が前後しましたけれども、今ぱつと言われて何もメモもございませんので、今言ったことにつきましては、そのような思いを持っております。

でも、大体のことは総合計画の中に取り入れてきているとは思いますが。

【記者】 あともう1点、きょう3時から正式に記者会見されますけれども、観光協会の事務局長が新たに民間からということで就任されますけれども、市長はもう会われているんですか。

【市長】 これ終わってから面談が入っておりますので。

【記者】 じゃ、今どんなことを期待されているのかというのを、ちょっと早いですけれども。

【市長】 やはり観光行政というのは非常に民の力のウエートが大きいというふうに思います。私も最初、観光協会の会長を私実は長くやっておったんですけれども、何とか早い時期に民間にということで今民間の方にやっていただいておりますが、今までも事務局等、また専務についても市役所のOBの方、もちろんこれは熱心な方でありましたので十分効果を発揮はしていただきましたけれども、やはり全く民出身の方で民間のノウハウを持った方に観光協会に入っていただくことによって、また違った新しい血が入り、私は元気になるといふふうに確信をいたしておりますし、先ほど言いました快速電車の受け皿等々を含めて、私も今回のマニフェストの中で観光客を200万人何とか増やしたいという数値目標も立てましたので、そのことにこたえていただくべく、ぜひ四季を通じた形で多くの皆さん方が来ていただける観光協会としての役割を果たしていただき、私は今度の新し

い方にはそういうことを大きく期待しておりますし、成し遂げていただける方だというふうに信じております。

【記者】 原子力の関係なんです、ご存じのとおり敦賀原発の不正はまだずっと続きまして、特別原子力施設監督官というのが近く派遣されてくる。再発防止対策を4月6日に出したんですが、それに対してはまだ具体性に乏しいということで突き返されまして、5月21日までに再発防止対策を出すようにということを保安院は求めています、1年間、厳重な監視のもとに置かれるということですが、市長おっしゃった4期目の公約である安心、安全なまちの中には、原子力の安心ということもあると思いますが、改めてどういう形のことを市として原電に求め、あるいは再発防止対策に何か盛り込んでほしいことがあるか、そこをちょっとお伺いしたいんですが。

【市長】 安心、安全のまちの中では、当然この原子力発電所の安全というのは一番大きなウエートを占めておる一つであります。やはり他の町にはないといいますか、全国で20数カ所しかない発電所を持っている地域でありますので、私どもそういう意味で原子力発電所というものは、やはりひとたび大変なことが起きると本当に地元のみならず世界中にいろんなことを発信するわけでありまして、そういう点では安心、安全、ともかく安全をしっかりやっていただくことが最重要であるというふうに思っております。

そういう観点から、昨今いろんな過去のこととはいえ、いろんな不正行為があったわけでありまして、そのことにつきましては今、事業者の方もしっかりやろうということで出しております。今、記者さんの方から改めてまた出すということでもありますので、保安院にとっても、私は安全というのは、やはり国が一元的に責任を持っておるわけでありまして、そういう安全・保安院が指示したことに対して事業者もしっかりとそれを真摯に受けとめて、安心、安全のために最大の努力をしてほしい、このように思っておりますし、今後、私どももそういうことにつきましてはしっかりと注視をしながら、安心、安全なまちづくりに邁進をしてみたい、このように思っております。ぜひそういう点では、国の保安院に大きい期待もいたしておりますし、当然として、しっかりやるべきだというふうに思っております。

【記者】 先日、県の原子力安全対策課で、最近の原発の不正の続発とか、いろんなヒューマンエラーが美浜3号機事故の後も続発しているということで、今年はヒューマンエラーの発生防止を重点的に、平常時も立ち入りを強化するとかそういう平成19年度の原発の監視計画というのを発表しているんですが、敦賀市として今年度どういう形で原発を監視していくか、原子力安全対策課を通じてどのように活動していくかという目標とか重点の置き方とか、そこら辺のお考えあったら教えてください。

【市長】 私どもの小さい自治体の中での原子力安全対策課でありますから、人員的にも限られておることはご承知のとおりであります。ただ、経験も非常に豊富でありますし、今まで安全というものに対してはしっかり取り組んできたことも事実であります。そういう経験を生かしながら、やはり今までの体制の中で持てる力を十分に発揮して、今まで以上に安全ということに対して、原子力安全対策課として部長以下それぞれの職員が一致団結をして安全面に対しては、今までも努力をしてみましたが今までも以上に頑張るように指示をいたしておりますし、そういう体制の中で必ず頑張ってくれるというふうに思っております。

ただ、新たに例えば人員をどんどん増やしてやるということは考えておりませんけれども、大体従来の形の中で、より一層引き締めていきたいと思っております。

【記者】 関連してなんですけれども、市長は原発の敦賀2号機での格納漏れ検査の不正が発覚して報告を受けたときに、昭和56年の1号機の放射性廃液漏れの件を引き合いに出されて、過去こういったことがあった経験を踏まえておられるのに非常に残念だというふうにおっしゃってました。2号機でも99年に1次冷却水漏れ、INESの事象ではレベル1になった大きな事故がありましたけれども、今回、保安院が悪質と判断した11件のうちの5件が実に日本原電で、敦賀原発の1号機と2号機だけで11分の4を占めるんです

よ。何がそういう背景にあると市長はお考えですか。地場の産業とかおっしゃっていましたけれども。

行政の長として、要するに地場の産業として、何でここまで問題を起こしてくれたのかというところをどう見ていらっしゃいますか。

【市長】 やはり原子力との長いつき合いの中で、分かりませんが事業者にとっては少し慣れてしまったといいますか、そういう部分も出たのかもしれませんが。そういう点では、安心、安全についてはそういうことは今後とも一切なしに。そのことについては最近の社長の会見、また関係者の皆さん方のお話を分析すると、今までとは違う形でやるという意識は感じられましたので、ぜひそういう形で、私ども安心、安全がなかったら原子力というものとはとても共存共栄できるものではありませんので、そのことを常に私も言っておりますので、それを理解していただき、ぜひ今後はこのことのないようにしっかり取り組んでほしいというふうに思っております。

【記者】 市田社長がおっしゃるには、現場と経営層とのコミュニケーションが不足していたというふうに言っていたんですけども、実際そのあたりはどういうふうに思われますか。

【市長】 やはりトップと現場とのコミュニケーションが少ないということが私どもやはり原因であるかなということを感じるものであります。私どもも役所という一つの組織の中でありますので、やはりいろんな部課長初め職員さんとのいろんなコミュニケーションというのは非常に大事だなと。そういうものがしっかりつながっていることによって情報が共有できますので、その情報がたくさんで共有されますと、これはおかしという指摘もいただけるものであります。一部でそれを情報だけ持っている、つついそういうことがつながらなかつたのも今回の原子力の不正につながった一因であるというふうに認識をいたしておりますので、私ども同じ役所の中でも庁議などをやるたびに、やはりそういうものをしっかり情報を共有しながら。やはり開かれた市政というのは何も市民の皆さん方にいろんなことを開くのではなくて、役所の中自体も開かれたものでないといかんというふうに思っていますので、私どももそういうことをしっかりと教訓として市政運営に当たっていきたいと思っています。

【記者】 あと市長は常々、原発の安全については国が一元的に安全を監督してきちんと規制して、そのあたり検査してほしいというふうにおっしゃっています。ただ今回の発電設備の安全性にかかわる総点検では、事実上おとがめなしということで、原発を停止させるような事態になったところはなかったですね。非常に行政処分として甘かったのではないかなと思いますけれども、実際、原子力の行政は事業者に対して甘いというのはよく言われていて、一罰百戒の効果が全くないのではないかなと思うのですが、そのあたりはいかがでしょう。

【市長】 これは法というものに照らし合わせて国が処分を決定したわけでありますので、それが甘いのかどうのというのは私どもとしてはちょっと認識のしにくいところがあると思います。

【記者】 今の関連で、職員の増員ということは今考えてないということでしたけれども、市のどこまで原子力の監視能力を高めるかということで、99年に敦賀2号機で冷却水漏れが起きた直後に、このままではいかんということで一人専門の原子力工学を学んだ専門家を入れているということですけども、例えば今そういういろんなところで、もちろん保安院が一義的に安全を監視することはそうですけれども、自治体としても保安院がだまされている、定期検査も全部検査官がだまされているということが続発しているという中で、市としてもある程度事業者に注意喚起を促し、緊張感を持続させるためにも、自治体単独でも安全の監視を強化するべきだという声はあちこちの自治体から聞こえてくるんですが、その中で今度の6月、次の人事異動とか原子力安全対策課の職員を増員するとか、例えば後ろに座っていらっしゃる松永技監と雑談なんかしているときでも、もう少し人がいれば、もう少し発電所に絶えず頻繁に行って事業者を見張るといいうこともできるけれども、

なかなかそれはいろんな雑務もあって難しいということをおっしゃるときもあるんですけども、その中で今のこの2007年という今年はすごい10年に一度の不正が続発しているという特別な年なので、それを受けて職員を増員するとか、そういう形で市単独でも安全監視能力を強化するという、そういうお考えはありませんか。

【市長】 先ほど言いましたように、私どもの範囲の中で、職員も非常によく頑張っていますし、どんどん成長して頑張っています。そういう意味でそれなりのノウハウも、技監も当然専門家でありますし、新しい職員も7年たちましたので。そういう意味で熟練になりつつありますから、その知識をしっかりと持って取り組めば。確かに担当課にすると増員してということは十分考えられるんですけども、やはり今回の事象といいますかこの事件については、かなりみんなが分かったという部分が良かったかなと思います。保安院も気づき、やっていこうとなりましたし、事業者も要するに昔の過去を出してやろうということで、大きな、そういう面では全体的な前進はありましたし、私どももそういうことをある程度評価もしながら、今後に対するチェックというのは私ども強く、先ほど言いましたように国が一義的に責任を持っているから私どもも安心して誘致ができたのであるし、そういう点を再度保安院なり事業者が確認をしていただいてしっかり取り組めば、私どもは今の現体制の中である程度、市民の皆さん方の期待にこたえられるのではないかと思っています。

【記者】 あと、市長は2月の電事連と保安院の要請のときに、私、同行させていただきましたけれども、車の運転に例えられて、要するに車のドライバーもあちこちに警察官が立っているとちゃんと法定速度を守るものだという形で、保安院の検査官の増員ということを要求されましたけれども、それに対して最近の保安院の体制強化ということをどう評価されているかということと、あと先日、全原協の幹事会が東京で開かれました。恐らくこの6月にはまた総会が開かれて、今年の全原協の活動方針が決まると思うんですが、今年の活動方針、強化される全原協として国、事業者に対して申し入れていくべきことしの重要課題というのは何かを教えてください。

【市長】 車の例でありますけれども、これは確かに私もそうだと思うんです。ドライバーにすれば、でも本来はドライバーが気をつけて信号を守り、法令をしっかり守れば、そこに立つ人は本当は必要ないんですけれども、人間の悲しいかな、立っておれば守る、立っていなかったら守らないということには本当はなってほしくない。できれば本当にそういうものがなくても事業者なりいろんなものが原子力に対してはしっかりやるというスタイルであってほしいというのが私ども一番望むことであります。

要するに、犯罪が多いから警察官をどんどん育成するのではなくて、本当は警察官が余り要らないと言われる世の中を望むものですから、そういう点では本来の事業者なりそういうものももっともっと自分自身というか気運をしっかりと教育して、そういうものが要らないよというもので本当は発電所が運営されるべきではないかというふうに思いますし、私もそういうことは望んでおります。

特に今回の全原協で、今案でありますけれども、安全確保という中で、やはり安全優先の検査体制確立をやれという、これは従来もやっておりますけれども、そういうもの。それと今ちょっと話題が薄くなりましたけれども、やはりテロ対策ですね。そういうものもしっかり。これは当然、安全につながってまいります。

大体、従来とそう変わらない内容であります。安全面に対することについては、いろんな昨今の事象、事件等もございましたので、そういうものを入れて今回の事業計画の案としてご審議をいただこうというふうに思っています。

【記者】 その事業計画は、いつまとまりますか。

【企画部技監】 総会の事業計画ですけれども、総会の前の日に役員会を開催いたしますので、その場で正式な案が決定するということになります。最終的には総会の場をもって決定するということになります。

【市長】 大体従来ですと事務局である程度練っておりますので、役員の中では大きな変更

というのはありません。文言がちょっと変わる程度が過去にありましたけれども、基本的にはそう変わらんとします。

【記者】 また原子力の関係なんですが、市長は当選直後のメディアのぶら下がりの中で、今年の高速増殖炉もんじゅの運転再開を次の認可するという大きなステップが今年はあるという話で、じゃどうされますかという点の中で、地域振興について向こうの国なりのしかるべき考え方を聞きたいという言い方で、じゃそれは具体的に何なんですかということは、今後これから新体制のもとで考えていきたいというふうにおっしゃいましたけれども、具体的に敦賀市が求める地域振興というものはどういうことを今考えておられるのかというのをちょっと。

【市長】 一言で言えば、私が言っております安全、安心で人が集い元気で暮らせるまちが私の目標でありますので、いろんなそれに対する事業がありますから、そういうものを含めて新体制、今日スタートしましたので、これからしっかりと考えていきたいと思いません。

【記者】 よく県サイドなんかで言われている話で、今年新幹線の西川知事も正念場の1年だと言われていますけれども、ひょっとすると県サイドは、またもんじゅの運転再開を条件に新幹線なりの福井までの同時着工であるとか、あるいは敦賀までの事業計画の認可とかそういうことを求めるのではないかという観測もあるんですが、それに対して新幹線の今年の事業計画の推進に関して、これをリンクさせようというお考えはありますか。

【市長】 私も前回のときもリンクさせなかったんですけども、やはり私が思うのは、新幹線というのは原子力発電所があってもなくても必要なものなんです。新幹線を、ルートの的にはまだ少し明確になっておりませんが、まず敦賀まで、私は敦賀にまずつくることが自分の思いなんですけれども、やはりこれはそこに原子力発電所があるからつくのではなくて、原子力発電所があってもなくても新幹線なりを通さなくてはならぬものであります。これは新幹線問題としては十分また努力してまいります、もんじゅの運転再開等について、それをリンクさせるということは今のところ考えていません。

【記者】 北陸電力は志賀の制御棒が抜け落ちて、原子力部門を移転すると。敦賀としては、敦賀の機能強化というものを日本原電に求めていくというような考えは、今回のトラブルを受けてはありますか。

【市長】今のところは、敦賀は敦賀発電所がありますから所長以下貼りついて頑張っていますので、そこでしっかりやってもらえばいいというふうに思います。

【記者】 経営層と現場が離れていて意思疎通がなかなか難しい、できていなかったというのが社長の分析なんですけれども、それを受けても特に何らかの取締役、経営層を何らかの形で現地にもうちょっと機能強化してもらおうというような考えはないんですか。

【市長】 恐らく社長のいろんな談話の中で、そういうお話が企業の中から出てきて、そういうことを感じておられるので、それは会社の中でしっかりと努力をされるのかなというふうに思っていますし、今後どのような形でそれが実行されていくかということは、また私どもも注視をしたいと思いません。

【記者】 第5次総合計画なんですけれども、冊子ができ上がって、分かりやすい冊子になっていると思うんですが、なかなか市民の間で第5次総合計画って一体何やというような話をよく聞くんです。市長は事あるごとに第5次総合計画という言葉が繰り返されますけれども、その中身を市民に分かりやすく理解してもらおうというような取り組みというのは考えていらっしゃいますか。

【市長】今の縮小版、ちょっと略したやつは幾つかつくって各ところに置いてあるんですが、かつては全世帯、実は配ったんです。第5次総合計画というのはこんなものであるということで、ある程度のやつを配ったんですけども、それに目を通していただいている方はこんなものだと分かるんですが、なかなか目を通していない方というのは何やと言われると。

ただ私どもは、まちづくりの指針であるし、その中に大体いろんな細かいことも書いて

ありますので。これは図書館に行けばありますし。ただ、分厚いやつを、結構高いもので全世帯に配るというのはこれまた大変なことなので、また今後ともRCNを初め、うちの広報もありますので、そういうものの中で一度、第5次総合計画はこんなもので、3期計画をなぶりましたと一度やったんです。たしか広報つるがにも入れて流したと思うんですが、また機会があればそういうもので、もうちょっと第5次総合計画はこんなものであるよということを広報したいと思います。

【記者】 一つお聞きしたいんですが、4月から始まりましたベロタクシーの状況なんかは、余り人気は芳しくないといううわさも聞いたんですが、いかがでしょうか。

【市長】 やっぱり値段的に高いというイメージがあって、なかなか余りたくさんには乗っていただけていないという報告を聞いていまして、何らか考えようということで、今、観光協会の方も頑張っているようであります。

【記者】 数値的なものは何もまとまっていないのでしょうか。

【市長】 今直ちにはちょっとないんです。またお知らせします。芳しくないことは間違いないと思います。

【記者】 あと、選挙の前から既存企業への支援をやりたいというふうに言っていたかと思うんですけども、市長の腹の中ではやっぱり考えはあるかと思うんですが、具体的にはもう固まっていることはあるのでしょうか。

【市長】 まだちょっと私のイメージでいきますと、例えば今、産業団地へ来ていただける企業にはいろんな優遇措置があります。例えば既存の企業の中で、今10人で工場をやっているけれども、5人に増やして少し会社を持ってきたいという、そういうところに対して産業団地で適用したような形である程度支援をできたらなと思っています。それを今練っていますから、またちゃんとした案ができれば、またお知らせしたいと思います。

【記者】 あともう一つ。機構改革にも絡むかと思うんですけども、助役お2人が副市長という立場になったかと思うんですけども、前とその後で何か例えばこういった権限を持たせるとか、役割分担とか、その辺は固まっていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 今度の機構改革に合わせて、なるべく権限もようけ持ってもらうと思います。もうちょっと待ってください。

【記者】 港線の活用という話ですけれども、ご存じのように敦賀港の貨物の搬入量が非常に減ってしまったということとか衰退の一途をたどっておりまして、JR貨物の関係者に聞くと近い将来廃線になるおそれもあるという話もあるんですが、それを敦賀市として今活用するというのは、観光に活用するということですか。

【市長】 まず、これも構想でありますけれども一歩ずつ進んでおりますのは、皆さんご承知の米原市におけるSILC構想です。一大物流拠点、要するにトラック運送からコンテナにかえていろんな物流をやろうという計画が進んでおります。それが軌道に乗ってくると、敦賀の港というのはコンテナが入って、そこに直結しますので、恐らくJR貨物の路線もかなり活発に利用される可能性もありますので、今その推移を見極めながら。

確かにかなり前にもJR貨物さん、なかなか大変だと。貨物が減るのでコンテナを全部引き上げようかというところまでいったんですが、現在まだやっておられますし、またそういう事業がある程度めどが立つと、今のJR貨物さんにとってもいい計画であります。それはそれとして私どもも応援をしながら進んでいますし、幾ら貨物が入ったって1時間に何十本も入るわけではございませんので、空いた期間をDMV、塚本副市長はちょっと視察にも行きましたけれども、DMVの活用なりそういうもので観光も利用しよう。もちろん本来のコンテナ貨物でもやはり利用していただく。そのためには、今度はポートセールスも関係しますし、いろんなものを工夫して港が元気になる、荷物も運ぶ、人も運ぶという路線でなるべくあれを残していきたいと思っています。

これは私どもは応援する立場で、あくまでもこれはJR貨物さんの持ち物でありますから、そういう点でいろいろ調整しなくてはならんところもありますけれども、そういうような形で運輸部門も、また観光部門も、できればあれをなくすことはしたくない。私ども

の気持ちとしてそう思っています。

【記者】 いろんな鉄道の専門家なんか聞くと、本当に観光開発としてあれを活用しようというのであれば、例えば非常に短い区間ですので敦賀港まで電化してはどうかとかいう意見であるとか、あるいは、もし本当に廃線になった場合は敦賀市があれを買い上げることはできないかということと言う専門家もいるんですが、そういうような形のもっと市が大胆に関与するということはお考えではないですか。

【市長】 そういう話もしています。結構高いんです。もし買い上げようとする高いのと、それと快速電車を港駅まで引っ張れんかなというこういった思いは頭の中に実はございます。そういうことも含めて、これからどういう形で利用すれば港線が生きるかということも考えていきたい。

ただ、直ちにだめだからそれを市で買い取ってとなりますと、相当金額的なこともありますし、やはり本体である貨物輸送が元気になると港も元気になりますので、それが今のコンテナを運ぶ一つの路線として、JR貨物さんが良いところだ、残そうと、営業しているというふうに持っていきのがまず第一かなと。今おっしゃっていただいたのは、その次、後にまた考えることかなと思っています。

【記者】 新快速が敦賀港まで乗り入れるというのは、あの2.7キロを電化するという何を意味するんですか。

【市長】 それも考えました。予算的にはそう莫大なお金はかかりませんので。ただ、JR西日本さんのいろんな意向もありますし、そのあたりが。例えば港駅が終着ということは走る方も非常に夢がありますので、そういうことを含めて、また将来の課題として頭の中に置いておきますが、やはり先ほど言いましたように今は貨物線としてあそこを元気に使っていただくことがまずは肝心かなと思っています。それに、中に私どもはちょっと割り込んで、いろんな形の観光的な要素も入れようかなと。会社から、西日本さんと貨物さんと違いますので、そのあたりの打ち合わせもしっかりしませんと、私どもだけの思いでこうしますよと言っても、それはなかなかうまくいかんということもありますので、ある程度慎重に、どういう方法が一番良いかということは今後とも、真ん中に近いところで頑張ります。

【記者】 それは例えば2.7キロ電化するためにはどれぐらいの予算が必要なのか。試算では。

【市長】 大体キロで分かります。恐らく米原の5キロでキロ1億弱だと思いますから、大体2億から3億の間でいけるんじゃないかなと私思うんですけれども。

【記者】 それは市長、検討したというのはいつぐらいの時期に、どういうレベルで検討されたんですか。

【市長】 正式に図面上でやったのではなくて、私どもの思いの中で、これで快速電車が港線まで行くといいなというようなことは関係者の中で話はしておりました。ただ現実的にはまだ、先ほど言いましたようにJR西日本とJR貨物と違う分野でありますし、路線によって甲乙丙といったかね、旅客の走る線路とランクが3つあって、今の貨物線の方はやはり荷物を専門にした路線なので、これを旅客専用の何かにすると、また安全面で少し対策をとらないかとかいう、また鉄道法とかいろんなことがありまして、そういういろんな絡みがあるものですから、その辺はやはりしっかりクリアしないと、簡単にじゃ電線張ったから快速電車が入れるというものでもないというふうにいろいろ聞きまして、なかなかこれは難しい問題だなということで議論したことは覚えていますが、正式にもそれを交渉したということは、まだやっておりません。

【記者】 JR側から少し意見を聞いたり情報を集めたりという形で事前協議みたいな、そんな話し合いをしたということは。

【市長】 そこまではいってないと思います。ただ雑談的に、こうやりたいがどうかという程度だと思います。

済みません。ちょっと計算違いで、44キロが161億ですから、単純に計算すると1キロ3.6

億円になっています。結構高いですね。これは車両とか全部入りです。これはまた後から。そんなレベルでは協議をしたことはないと思います。

【記者】 今お考えとしては、まだそれは生きていて、将来的な……。

【市長】 頭の中では生きています。何とか良い方法で。要するに、あそこをいい形で活用できんかなという思いはあります。

【記者】 それはどのぐらいタイムスパンで実現していこうと思っている。どれぐらいの……。

【市長】 今は、まずご承知のようにDMVで何とかあそこを走らそうという計画をやっておりますので。仮にDMVになれば、これも話題性ありますし、バスとも併用になりますから。安全面でいくと、かなり車両が軽いので、路線は大丈夫なだけけれども今度は信号機がちょっと作動しにくいという問題でのクリアもしなくてはならん。今その辺でJR北海道と警察といろいろ協議もしてやっています。それを見ながら、実用化になるとなれば私もまず当初の目的であったDMVを走らせて、そういう交通手段も考えていますが、先ほど言った直流化、快速などのお金のこともあるし、頭の中からは決して消さないつもりです。

【記者】 それから、今年市制70周年でしたか。それを受けて、いろんな記念事業とかそういうことはお考えですか。

【市長】 今こういう時代ですから、余り派手に式典とかそういうものは避けようというふうに思っています。例えば人道の港に関連をして何かするとか、JRの直流化に合わせて少し70周年ということでやりますけれども、人が来てくれるような方法でそういう記念事業を考えています。まだ具体的にここだということまではいっていません。これからかかるところです。

【記者】 やっぱりみなと博のときみたい、また欧亜国際連絡列車を復活させて、また特別列車を走らせられないかということに期待する声もあるんですが、そういうことは。

【市長】 それも含めて考えていきたいと思っています。これからです。

【記者】 それは予算化が必要な時期ですね。

【市長】 はい。決まれば6月の議会に予算計上ということで、まだ査定にも入っていませんけれども、今積み上げてきていると思います。ただ、余りお金がないので、かなり地道になると思いますけれども。

【記者】 先ほど新幹線の話が出ましたので、ここで敦賀市と敦賀の市長としての河瀬さんのスタンスみたいなものを確認したいんですが、北陸新幹線どうあるべきかということで、敦賀以西のルートについて、現時点で4期目でどうお考えですか。

【市長】 そう変わらんとするんですけども、閣議決定された若狭ルートというのは非常にお金もかかるし、それと京都、大阪の理解を考えると、かなり時間がかかるなど。基本的には、私はいつも思っているんですけども、日本海新幹線というのを走らせなアカンだろう、将来。そのひげ線として、やはり一番理解が得やすい、お金がかからないということを考えれば、米原へつないだ方が早いんじゃないかと考える一人なんです。これは昔から変わっていませんし。そういう思いがやはり嶺南地域一帯でもまたいろんな思いがありまして、それでいいんだということと、いやそれではだめだという意見がありますので、絶対米原にしないでほしいということは私は言える立場ではないんですけども、費用面でいくとそちらの方が。

やはり新幹線というのは、つながらんことには余り意味がないのかなという気もしますし、敦賀に来て、敦賀でしばらく止まってもいいんですけども。また湖西線に乗りかえて行ってもらえば、乗りかえのついでに敦賀でだーっと降りるので。敦賀市長としての欲だけを考えれば。でも、やはりこれはつながっていくべきものでありますので。そうすると、やはり米原で。乗り入れとか技術的に難しいということでもありますけれども、一番良いのかなと。それか、湖西線利用という話もありましたし。これも京都の方へ抜けますので。そのあたりは専門的になりますし、技術的なこともありますので、できる限り

早くつながってほしいなと思っている一人です。

【記者】 今の話を要約すると、費用とか周辺自治体とかの理解を得る点を考えると、実現性からいって米原ルートが望ましいと思っていられっしゃるという。

【市長】 早いんじゃないかなと思っています。望ましいというよりも、早くつながることが肝心。

【記者】 一番実現できるんじゃないかということで、個人的には良いと思っています。

【市長】 はい。

【記者】 分かりました。

それと、もんじゅなんですけれども、以前2月の定例会見のときに同じような質問を伺いましたけれども、安全、安心をいつも市長はおっしゃいますが、電力事業者とか原子力機構とかいう技術的な方の安全と、市民の求める安心の方にどういう隔たりがあるというふうに思っていられっしゃいますか。どこをどうそこを埋めてほしいと思われませんか。

【市長】 安全というのは目に見える形であって、要するに安全なんです。要するに危険がないというのが安全。ところが安心というのは心の持ち方があるものですから。要するにそこにあるだけで不安を持つ人がいますと、その人にとっては安心ではないんですね。だから、それを埋めるというのは非常に難しいものがあって、人の心の部分が入りますので。やはりそれは実績を上げる。要するに、安全で安定に運転していくことによって安心が増えると思いますし、いろんな不祥事があったりトラブルが続くと、今度は不安という部分が増えてきますから、基本的には安心の部分100%解決するというのは非常に難しいと思います。ただ、やはり安全の部分をしっかり事業者が進めることによって安心の部分が増えてくるのかなというふうに思いますので、ぜひそういう形で。もちろん、うちでこれは安心というのでも、私どもの地域はもう建ってありますので、既存の施設がしっかりと安全で安定に運転していくことこそが私は安心につながると思います。

【記者】 原型炉であるもんじゅは、トラブルの克服も研究開発目的の一つであるというのは正式に原子力機構はアナウンスしていますけれども、それに先んじて118トラブルが予想されるということをダウンロードできるようにホームページでも公開して、冊子も配っている。多分、実際にトラブルがあったときに、こんなトラブルは予想していましたからというふうにおっしゃると思いますけれども、例えば、ナトリウムが漏れて火を噴くとかいう事態になったら、12年前と同じようないろんなことが多分紙面をにぎわすと思いますが、やっぱりそういうことを考えると、技術的に安全であるとはいえ、トラブルはやっぱりゼロにしてくださいというのが市長としての思いですか。

【市長】 そうです。人間でも機械でもそうですけれども、完全無欠というのは世の中にはないと思いますけれども。ただ原子力については、やはり最終、最悪事故、要するに放射能というものを屋外に散らすようなことは避けなくてはならんわけでありまして、恐らく小さいトラブル等は、私はゼロにしてほしいという気持ちはありますけれども、なかなかゼロには。ゼロに近づける努力は皆さん今頑張っていられっしゃいますので、ぜひそれは続けていただきたいと思います。

こういうことがあればこういうふうに対処する、こうなればこうするというものをつくって、こういうこともあり得るということを公表することも一つの安心にもつながるのではないかというふうに思いますし、その辺が見えませんか、こうなるときどないなるんやろうという不安が出ますと、これが要するに安心でなくなる部分がありますので。今回の原子力研究機構のやった118のトラブル、こういうことを出すことも一つかなと。

できる限り私どもはそういうことにならんようにやってほしいことは願っておりますが、そういうところで今の取り組みについては、要するに数十年前といえますか30何年前は絶対大丈夫ですと言ったんです。原子力発電所は絶対大丈夫ですと。もんじゅについてもナトリウムは絶対出ませんと言っていたんですから、その辺の反省を今しっかり持っていますので。私は、その姿勢はこれからも変えることなく頑張っていきたいと思っていますけれども。

【記者】 ただ、トラブル事例集の冒頭には、人は誤り機械は壊れるという前提で進めますというふうに、そういう変化は見えるんですけども、118の想定の中には改造工事をする原因になった温度計のさや管の折損によるナトリウム漏えいとかいう想定はまずないと、国際原子力事象評価尺度でいうと2以下までのやつしか想定してないんです。質問すると、3以上ということはありませんと言うんですよ。そのあたりはどうか。

【市長】 恐らく今までの経験の中で、そういうことが出たんじゃないかなというふうに思います。そういう点で、例えば極端な話が、物すごい直径5キロの惑星が地球にドンと当たったときに原子力発電所は大丈夫ですかと言われてもお答えのしようがない部分もありますので、その部分までもいかないと思いますけれども、その辺はちょっと難しいですね。

【記者】 直流化の話なんですけれども、観光振興がよく取りざたされていますが、もともと要するに敦賀にとってJRの直流化というのは、JR西日本の言うところのアーバンネットワーク、大都市圏に新快速電車がつながることによって通勤圏、通学圏になることで敦賀に定住する人口も増えて、将来的には敦賀の発展につながるという趣旨もあったはずだけれども、市として何か出る側の促進というのはされているんですか。これはやはりJRの方もダイヤの短縮という要望には、そう簡単にうなずかないと思うんですけれども。

【市長】 敦賀の皆さんが京都、大阪へ行く促進。これは促進しなくても結構行っているんです。これは快速電車が来る前から、要するに今津の方に車で行って、そこで新快速が来ていますから乗って行っていました。今でも行っていますので。

やはり私どもは、来ていただいた方がお金も落ちますし、行けば向こうで消費になりますので、余り。ただJRさんにすれば、往復で乗った方がいいですわね。運賃が上がりますので。そういう点では交流で、私どもも決して行ってはだめだという条例はつくっていませんので、自由に往来をしていただいてJRをご利用いただければいいと思いますし。

ただ、おっしゃるとおり時間短縮になれば通勤圏、今でも京都が1時間20分ぐらいでしたか。特急ですと55分で行くやつが25分ほど長くなりますので。でも都市部の通勤を考えれば1時間ちょっとというのは、そう特別長い時間でもないように思いますので、そういう点でできる限り、またJR西日本さんには時間短縮ということについてはお願いしますけれども、これもやはり滋賀県の自治体の皆さん方の運動の中の一つの条件に入っているということを聞きますと、無理やりあそこを飛ばして、ともかくうちの方を速くやれということも言いにくいところもございまして複雑なんですけれども。できればそういう範囲で敦賀に住んでいただいて、大阪はちょっと遠いですがけれども、京都近辺に仕事に行かれる人が増えることも期待もしていますし、そういう例えば取り組み、そういう相談、実は敦賀に住みたいとなれば、また少しそういう応援ができて定住人口を増やすという政策も考えていかなあかんかなと思います。

【記者】 ただ、京阪神方面の利用に関しての促進は、市としては考えていないということですか。

【市長】 そうですね。とりあえず行きましよう行きましようということは余り考えていませんけれども、これは行っています。心配なく、皆さん乗っております。

【記者】 市民病院に関してなんですけれども、今日ちょっと記事でも取り上げさせてもらったんですが、病院職員の人件費として平成15年度以降、多分累計で10億円以上、三法交付金を使っている、投入しているのではないかなと思うんですが、この現状について、三法交付金というのは本来、電源立地地域の電源立地を促進するという目的でつくられたものであって、多分ほとんどの市民は病院の職員の給与に使われているということは知らなかったと思いますし、予算書のどこをどを見てもそういうふうには、必要な予算書はどこをどう見ても書いてないんですよね。私調べたんですが、書いてないんですけれども。

そういう現状について、三法交付金の使い方ですね。事実上、病院の赤字補てんになっているわけなんですけれども、この現状についてどういうことか。正常なことと考えているのか異常なことと考えているのか、市長の見解を聞きたいんですけれども。

【市長】 まず、この交付金についてはいろんな制約があったんです。そういう人件費はだめだというのがあったんですけれども、私ども運動を展開しながら、立地地域にとって原子力があって良かったと言われる一つの私どもの政策でありますし、国もそういうことを言っていたり、私どもの考え方にある程度共鳴いただいて、じゃいろんな交付金も使い勝手を良いものにしましょうということで、人件費にも使えるようになりました。

これは会社でいいますと、会社の事業で収入がある、私は収入だと思っています。この収入を社員の給料に使うだけでありますので、法的にも全く問題ありませんし、それは会社の、私ども自治体を会社と判断すれば、また他の事業をやっている会社はまた他のやつで人件費を賄っていますし、私どもはたまたま原子力というものがあって、そこからただける交付金を回しているだけでありますので、全く私は昔より正常な状態になったというふうに認識をしながら、市民の皆さん方にも病院の。もちろん病院というのは今は厳しいですから赤字になっていますが、何とかこれはならないように、これはまた努力はいたしますけれども、そういう点では決して異常なことではないと私は思っております。

また、これから観光面なり、またいろんな事業で収入を得て、その収入を会社の中で適切に使う。会社の発展のため。会社の発展というのは市役所じゃないですよ。敦賀が一つの会社と見ての発展のために使っていくことでありますので、そういうふうに交付金を敦賀の町の発展のために適切に使わせていただいているつもりであります。

【記者】 ただ本来病院というのは、理想的に言えば独立採算でやるのが一番良いわけですよ。現在の一般財源もしくは交付金の投入状況というのは、やっぱり他の自治体と比べても異常に多いと思うんですが、そういう認識はもちろんあるから検討委員会をつくっているわけですよ。

【市長】 そうです。やはり今の状況というのは大変厳しい。これはご指摘のとおりでありまして、何とかこういう状況を解決するために、検討委員会の中でしっかり議論していただいて、いい形に必ず改善をして、市民の皆さん方の心配のないようにしていきたいと思っております。

【記者】 先ほどの新快速の絡みになるんですけれども、昨年末ですか、駅周辺整備基本構想というのが策定されて、あの基本構想の流れでいくと今年度から新しい駅舎をデザイン初めとして具体的な動きが起こるという流れになっていたんですけれども、余りその辺のことは全然今耳に入ってこないんですが、市長もしくは副市長、分かる範囲で結構です。駅周辺整備に関しては今どのような状況になっているか、分かる範囲でお答えいただけませんか。

【市長】 順調に進んでいまして、22年完成します。その予定で今スケジュールは組んでいるんです。

【副市長】 表に出てくるような交渉事にはなっていませんが、水面下では随分やっていますから、また近いうちにそういうようなことが。

【市長】 また発表できるときに、ちゃんとします。

【記者】 たしか基本計画の策定委員会を立ち上げるとかそういうお話もあったんですけれども、一切耳に入ってこないもので。

【副市長】 デザインはだれがやるかとか、あのときそういう議論があったと思います。その中身を今詰めています。ですから決して休止している状態ではないです。交渉は着実に進めています。

【市長】 私の方からよろしいですか。

例のコロナさんの実はコンサートをすることが決まりまして、団体から依頼がありまして、私も人道の港であるという敦賀の旧港の思いの中で、やはりこの記事、皆さん方も記事に取り上げていただきましたけれども、何とかコロナさんに、本当は元気で帰国してもらおうのが一番いいんですけれども、なかなかそういう状況も難しいということで、どうしても資金が要るということであります。5月20日でありますけれども、時間は1時半だったと思います。また正式なやつをまたお送りしますけれども、きらめき館の広い方で、今

お配りしたチッチ、その子もちょうど出てくれますので。私のバンドとチッチ、他にもそういう協賛をしてくれるバンド仲間です。1000円のチケットを販売して、経費はほとんどかけずにやろうということで、なるべくたくさん売上をして、それをその団体に。

私はしませんよ。私は寄附すると、また……。私はバンドで協力するだけで、たまたま記者の皆さんいらっしゃると思いますので、また記事になるとお客さんがたくさん来てくれるかなというふうに思いますので、今、やることが決まりましたのでご報告だけさせていただきます。記者の皆さん方、せめて3枚買っていただいて全員来ていただく。ぜひお願いしたいと思います。

なかなかうまいんです、小さいですけども。大人用のギターを使っていて、手が小さいもので、テケテケというのは普通こう弾くんですが、親指でガラガラと弾いて。とてもかわいらしい子なので、ぜひ来てください。

以上です。

【記者】 この関連で、県政で団体の方が会見を開いたりして協力呼びかけというのはしているんですけども、詳しく取材していないので。市長さんはボランティアで出て、チャリティをやられたりとか、こういう会見の場でもこういう資料を用意されていて。

はっきり言って、日本に来られる外国の方で同じような恵まれなくて病気になってしまったりとか、いろんな方多いと思うんです。今回運動が結構広がりを見せていて、おとといですか、市内のスーパーでも気比高の子がボランティアをやっていたのを、僕もそういうのは、個人的にボランティアをするのは大賛成なので募金してきたところなんですけれども、ここまで運動を広げようとされる原動力になっている事情というか、なぜここまで大きなというのがちょっと私はまだ分かりにくいので。

【市長】 私も分かりにくいんですけども、私この話を聞いたときに、いろんな苦労されてこちらへ来られた人が敦賀でたまたま病気になられたといったときに、私ども先ほど言ったように人道の港であるということのをこれから思いながらやっている中で、非常にそういう共感というんですか、人の命というのはどういう立場にあっても大事なものであるしという中で、これはぜひ私どもでもできることであれば協力をしようというだけの。本当にだから私、まだコロナさんにお会いしたこともありませんが、福井の代表の方にお会いしたことはないんですけども、そういう意味では何とか敦賀でこういう目に遭われておるので、本来はさっき言ったように元気で本国へ帰れば一番いいんですけども、なかなかそれも難しいという状況もありますので、一刻も早く帰ってあげたいというそういう団体の皆さん方の願いでありますので、余り時間がないということもちらっと聞いていますので、急遽だったんですけども。そういう人道という思いの中で、私も何とか応援したいなと思ったわけです。

【記者】 そうすると、今後同じようなケースで、またよろしくというようなことがあった場合には。

【市長】 これをやれというなら、いつでもやります。中越地震のときもやりましたし、今度は本当は石川の地震のやつがあったので、ちょっと時間を見てそれとも思っておったんですけども、このコロナさんが入りましたので、今回はこれに集中してやります。

【記者】 要するに、今後ともコロナさんに限らず、極力きちっとした筋の話として援助を求めるような事態があれば、それは。

【市長】 そうです。また人道という観点から、また私どものできる範囲でやります。

【広報広聴課長】 では、定刻になりましたのでこれで終了いたしたいと思います。ありがとうございました。

午後2時32分 終了